

4月27日 - 5月8日週のユーロ円レビュー

May 11, 2009

強い量的緩和スタンス示されず買い優勢

High : 134.35 円 Low : 124.38 円

Close : 134.35 円

4/27 - 5/1

週初は売りが先行。WHO（世界保健機構）が豚インフルエンザの警戒レベルをフェーズ 4 に引き上げ、リスク回避のドル買い・円買いで、対ドル・クロス円で各通貨が下落した。ノボトニー・オーストリー中銀総裁の「必要なら量的緩和も」との発言もユーロ売りを加速。ユーロドルは 1.3 ドル割れ、ユーロ円も軟化した。28 日、一部米紙が「FRB は、シティグループやバンク・オブ・アメリカらに資本増強を要請する方向」と報道したとも後押しとなり、ユーロドルは 1.2964 ドル、ユーロ円は 124 円前半まで続落した。

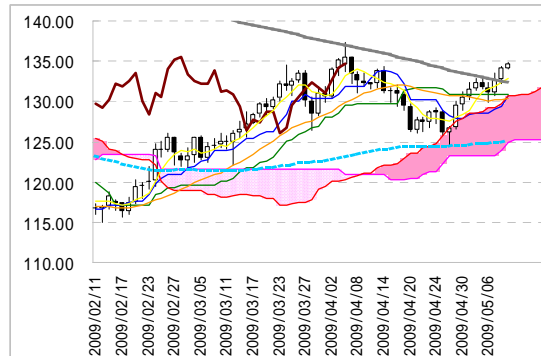
しかしその後は FOMC を控えてポジション調整の買戻しが進んだ。FOMC 声明で「景気見通し改善」への言及もあり買い優勢に。30 日、クライスラー破綻のニュースを受けても株価は堅調に推移。リアルマネーやマクロ系の買いで、ユーロドルは 1.33 ドル後半まで上振れ。その後、連休で本邦勢が不在、アジア各国がメーデーで市場参加者が少ないなかクロス円の買戻しが進み、ユーロ円は 132 円前半まで上昇した。

5/4 - 8

週明けはユーロ圏 GDP 見通しの下方修正を受けて売りが先行。ユーロドルは 1.32 ドル前半、ユーロ円は 131 円前半まで下落した。その後は ECB 理事会を控え、株価や景況への見方を巡って一進一退。7 日、ECB が量的緩和スタンスが強く打ち出されなかったことから買い優勢に。8 日、米雇用統計の発表後に失業率悪化などを材料に米債買い（利回り低下）が進むと、ユーロドルは 1.36 ドル半ば、ユーロ円は 134 円前半まで上伸した。

月日	High	Low
4/27 (月)	128.75 円	125.65 円
4/28 (火)	126.88 円	124.38 円
4/29 (水)	130.02 円	126.65 円
4/30 (木)	131.28 円	128.93 円
5/1 (金)	132.35 円	130.30 円
5/4 (月)	132.87 円	131.35 円
5/5 (火)	132.80 円	131.54 円
5/6 (水)	132.42 円	129.86 円
5/7 (木)	133.58 円	130.73 円
5/8 (金)	134.35 円	132.15 円

ユーロ円の推移



テクニカル短期・中期ポイント

141.80 (週足一目均衡表・雲の上限)

137.42 (4月6日高値 = 年初来高値)

==== 先週末の NY クローズ 134.35 円 =====

130.75 (日足一目均衡表・雲の上限)

124.97 (日足一目均衡表・雲の下限)

欧州の重要指標結果

4/30 (木) [結果] (前回)

独 4 月失業者数 [+5.8 万人] (+7.1 万人)

独 4 月失業率 [8.3%] (8.1%)

5/4 (月) [結果] (前回)

EU09 年ユーロ圏 GDP 見通し [-4.0%] (-1.9%)

EU10 年ユーロ圏 GDP 見通し [-0.1%] (+0.4%)

ユーロ圏 4 月製造業 PMI・確報値 [36.8] (36.7)

5/6 (水) [結果] (前回)

ユーロ圏 4 月サービス業 PMI・確報値 [43.8] (43.1)

ユーロ圏 4 月総合 PMI・確報値 [41.1] (40.5)

5/7 (木) [結果] (前回)

欧州中央銀行 (ECB) 理事会、金融政策発表

[25bp 利下げ 1.00%] (25bp 利下げ 1.25%)

カバードボンド購入表明も国債購入には踏み切らず

アウトルック ダイジェスト版

レンジ : 130.75 - 137.42 円

ECB が量的緩和姿勢を強く打ち出さず、買い優勢に。200 日線の抵抗も抜けて上伸した。年初来高値 137.42 円を意識した展開が予想される。ただ、大きな節目の 200 日線を越えたことで、売り圧力に晒される可能性も捨てきれない。伸び悩んだ場合、131 円割れに位置する日足一目均衡表・雲の上限が下値の節目となる。